

(4) 導入機能の考え方

平成27年度に実施された「芦屋港周辺における水辺の空間を活かした地域創生のための基盤整備検討調査」（福岡県）を踏まえ、芦屋港活性化推進委員会において検討した導入機能をもとに、現時点で考えられる事業の実現可否を検討し、整理しました。ただし、これは現時点で想定されるものであり、事業化の段階においては、社会経済環境の変化や芦屋港の賑わい創出などによる環境変化などに応じて、適宜見直しを行う必要もあります。

(5) 事業主体

事業の実施にあたっては、港湾管理者である福岡県と芦屋町が協力して実施することとします。

整備する施設などに応じて主体は異なりますが、詳細な分担については、今後具体的に協議しながら決定していくこととします。

また、官民連携手法や民間事業者誘致などによる民間活力の活用も積極的に導入していくこととします。

(6) 芦屋港の整備コンセプト

レジャー港化にあたっては統一的なコンセプトが重要となります。そのため、まず現状と課題を踏まえた将来ビジョンを次のように定めました。

■将来ビジョン

① おいしい笑顔があふれる場所

- ・芦屋町の新鮮な水産物や農産物を食べられ、そのおいしさを共有できる場所を提供します。特に、漁協エリアとの近さを活かし、魚食の拠点と位置付けます。
- ・芦屋町の水産物や農産物の魅力を語るができる人を増やします。
- ・海に隣接した地勢を活かして、「海が好き」、「水産物を食べるのが好き」、「釣りが好き」な子どもたちを増やします。

② 子どもたちが笑顔になれる自由な遊び場

- ・広大な敷地を活かして、子どもたちが自ら考え、自由に遊ぶことができ、遊びを通じてたくさんの学びを得られる場を提供します。

③ ゆったり過ごせる海辺の時間を提供する場

- ・海辺の景観を活かして、散歩、レジャー、サイクリング、デートなど、さまざまなシーンに利用され、思い出のワンシーンの背景には、いつも芦屋港があるような、芦屋町内外の人に愛される場を目指します。

④ 町民一人ひとりが主役になれる、みんなの居場所

- ・町民の「やりたい」を実現する仕組みとコミュニティを形成し、みんなが芦屋港の場づくりの当事者になれる機会を提供します。
- ・芦屋港の場づくりを通して、地元愛を育み、芦屋町に誇りを持てる町民を増やします。

⑤ 行けば何かがある、期待感を感じさせる港

- ・砂像展やマルシェなどさまざまなイベントを開催し、広域観光の拠点の1つとして、遠方から行きたいと思わせる、ワクワクした場所を提供します。

このような将来ビジョンを実現するための、芦屋港レジャー港化のコンセプトを次のように定めます。

■コンセプト

芦屋町の魅力を五感で楽しむ魚食の拠点

芦屋町の水産物、農産物を「見て、聞いて、触って、体験して、調理して、食べて」、様々な芦屋町の魅力を五感で楽しむ拠点施設とします。特に、漁協との近さを活かした「魚食の拠点」と位置付けます。

海を活かしたレジャー拠点

芦屋海浜公園、レジャープール、漁協との近さ、海釣などのポテンシャルを活かした、芦屋町の海を活かしたレジャーの拠点とします。

水辺空間を活かした広域観光拠点

芦屋町の観光拠点のほか、北九州都市圏域の広域観光の拠点の1つとして、また海の玄関口として、水辺空間を活かした施設整備、観光コンテンツづくりを行います。